

聖書箇所：マタイ5：1～16

タイトル：「世に対する証しとしての礼拝」

テーマ：神の国の市民としての生き方は、この世の価値観を持つ人の生き方とは異なっている。地の塩、世界の光として生きることを通して、天におられる父なる神があがめられる生き方とはいかなるものであるのか。きょうは、クリスチャンの捧げる礼拝が、世に対する証しとなり、世の人が礼拝の中に招かれた時、そこに新しい価値を見出し、その人の価値観が大きく変えられ、共に父なる神をあがめる者に造りかえられていく礼拝とはどのようなものかを考えてみよう。

#### 1. はじめに

#### 2. マタイ5：1～16（クリスチャンの価値観と生き方）

- ①神の国の市民の8つの性質とそれに対する神の祝福（1～12節）
- ②地の塩（13節）
- ③世界の光（14～15節）
- ④天におられる父なる神がほめたたえられる生き方（16節）

#### 3. 礼拝がなぜクリスチャンの証しとなるのか？

- ①クリスチャンになる前の私たちの生き方（神を知らず、神を礼拝することも知らず）
- ②クリスチャンになってからの生き方——神を礼拝することを第一に。
- ③未信者の方が教会に来られるとき何が起こるか
  - \*異なる価値観との遭遇
  - \*クリスチャンは新しい方をどう迎えるか
  - \*未信者の方に迫られる選択

#### 4. 結論・適用

- ①礼拝は、教会に人々をお招きしての証し
- ②礼拝をささげるクリスチャンの姿勢の確認